

「進歩前新（進）せよ！」

～セレンディピティーを起こせ～ ピリピ 4 : 11～13

みなさんは、「大切なきみ」というお話しを知っていますか？このお話しの中心的なメッセージは、「人は何もできなくとも、存在するだけで“大切きみ”なんだ」ということです。ウイミックスの毎日は、一日中同じことをしていました。才能のある人や凄いことのできるウイミックスには、ピカピカの星印が与えられ、才能がないものや、特別のものを持っていないには、灰色のだめ印を貼る、ということでした。こんな評価を毎日しながら、ウイミックスたちは暮らしていたのです。才能のもっている者や凄いことのできる者、または、頭のいい者は「大切な存在」として受け入れられる。この絵本では、お星さまシールが与えられるということを示されています。しかし、残念ながらいくつから、勉強しても物分りのよくない者や失敗ばかりしている者もいます。この世界では「だめな人間」として評価されます。この絵本の主人公として「パンチネロ」があげられます。特別の才能の持たない「だめ存在」の象徴です。パンチネロ自身も自分のことをそう思っていました。しかし、それは、ある人との出会いによって変わるのです。ウイミックスの創り主であるエリに出会うのです。パンチネロを創ったエリは、「全ては分かっているよ。みんなはどう思うなんて関係ない。私はおまえのことを大切だと思っている」と語ります。パンチネロは喜び、また、驚きます。僕が大切だって？ また考えます。どうして僕が大切な？と。すると、エリはパンチネロを暖かく見つめながら、こう答えます。「それはね、おまえが私のものだからさ。だから大切なんだよ」と。パンチネロは今まで誰からも、こんなことを言われたことはありません。またエリは言います。「どんなシールがもらえるかってことを気にしていると、シールのほうもおまえにくっついてくるんだ。おまえが私の愛を信じたなら、シールなんてどうでもよくなるんだよ」と。エリの家からの帰り道、パンチネロは「ひょっとしたら、あのエリが言うことは、本当かもしれないぞ」と思います。その時に、一つのだめ印が飛んでいくのです。

私たちにもパンチネロのように自分を誰かと比較して「自分なんて…」「自分はある人よりマシ」などと思うことはないですか？今回の聖書箇所はルカ 5:1～11、タイトルは『進歩前新（進）せよ！』で副題は～セレンディピティーを起こせ～！！です。セレンディピティーって知ってますか？何かを行っている時、その行っていることとは別の価値あるものを見つける・気づくことを言います。私たちは、ある目的に向かって進んでいる時に今まで気づけなかった新しい発見をすることができると、朝から晩まで同じ価値観で過ごしていると、人生を変えるようなセレンディピティーが起こっても気づくことができないのです。毎日同じ道を走っていると、新しい看板が立っていても気づかないことって無いですか？「同じで当たり前」と思い込んでいるからです。人生も同じです。今まで生きてきた中で受けた他人からの中傷や自分がやった比較による傷によって「新しいことなんてないもない」「どうせ…」と置いては新しい発見なんてできません。しかし、私たちがなにか新しいことをしようとして前進すると、無意識に新しいことを探していますので、いろいろな新しいことを発見することができる、セレンディピティーが起こるのです。

士師記 4:6～10 を見てください。士師記にデボラという女士師がいます。この時代、イスラエル北部地域はカナン人の王ヤビンによってすでに 20 年間も支配されており、人々は苦難の底にありました。神の命を受けたデボラはこれに対して立ち上がったのです。彼女はナフタリ族のバラクを指揮官として、ナフタリ族とゼブルン族 1 万人を動員させ、カナン人の將軍シセラの軍と戦うように命じたのです。しかし、カナン軍は多量の戦車を有する強力なものなのに、イスラエルには歩兵しかいませんでした。バラクは不安であり、デボラと一緒になければ自分には行かないと言いました。デボラは当然そのつもりだったので、バラクと一緒に出発しました。そして、この戦いで地形を利用して、デボラはカナン軍を撃ち破り、イスラエルに平和をもたらしたのです。神さまはこの士師記を通して「今あるところから進まなければ私たちに新しい道はひらけない」と言うことを伝えてくれています。

ですから、私たちは、①キリストによる価値観の変化をもたなければいけません。本日の聖書箇所に出たペテロを思い出してください。ペテロはプロの漁師でした。ずっとゲネサレ湖でイエス様がされる素晴らしい話を聞いていました。そうすると、ペテロは今まで自分がもっていた価値観とイエス様が言われる価値観が違うことに気づきました。私たちも、毎週神さまの話の話を聞くと、今まで自分がもっていた自分中心の価値観から変化が起きますよね？イエス様の話を聞いていて、ペテロも「今までは自分の考えが正しいと思っていたけれど、もしかするとそうではないのかもしれない」と思ったのです。だから、漁のど素人のイエス様に「深みに漕ぎ出して、網をおろしなさい(4節)」と言われた時、素直に従ったのです(5節)。価値観を変えていなかったらきっとペテロはイエス様に「プロの漁師に指図するな！」と怒ったことでしょう。私たちも、初めて教会に来た時は疑う部分があったと思います。しかし今は価値観が変えられてここに集まっています。私たちが教会に行く理由は「価値観が変わる」からです。私たちの価値観が変われば新しい発見がきます。パンチネロもそうでした。今までダメ印や星印で評価される世界で生きていましたがエリに出会って、価値観が変わり、自分が大切な存在であることに気づきました。今日、価値観を変えましょう！すると、今までずっと同じこと・だめなことばかりだったのが、新しい発見・出来事がペテロの魚のように大漁ですよ。

そして、②キリストの愛により自分の罪に気づくのです。『これを見たシモン・ペテロは、イエスの足下にひれ伏して、「主よ。私のような者から離れてください。私は罪深い人間ですから」と言った。(5:8)』ほんの少し前までは熱心な弟子で怒りっぽかったペテロがイエス様の言葉を聞いて価値観に変化が生まれて、自分が今までどれだけ悪いことをしてきたのかという罪に気がついたのです。教会に来ると、人を指さして自分中心で生きてきた価値観が変えられて、自分の汚さに気づくことができます。自分の罪に気づき、相手のことが赦されるようになるのです。『主が振り向いてペテロを見つめられた。ペテロは、「きょう、鶏が鳴くまでに、あなたは、三度わたしを知らないと言う」と言われた主のおことばを思い出した。彼は、外に出て、激しく泣いた。(ルカ 22:61・62)』大人も子どもも「アイツにやられた」「アイツのせいだ」と人のせいにして悔しくて泣いて訴えることはあります。しかしペテロは、罪を悔いて自分の汚さに涙しているのです。後悔ではいけません。自分の罪に気づいて悔いて改めて前に進みましょう。

最後に、③キリストの犠牲が与える使命があなたを立ち上がらせるのです。私たちは「キリストの愛を伝える」という大きな使命をもっています。しかし、その方法・目的は同じではありません。だから役割がそれぞれ違います。だから比較のしようがないのです。それなのにどうして比較するのですか？だから神さまの前に出て自分の役割を尋ねてください。私たちがその使命を果たすために、なぜここにいるのか、どのような方法を用いるのかを尋ねてください。イエス様は、私たちが自己中心から解放されるために、私たちのために、十字架にかかられました。神さまが最初に創造された「最高に素晴らしい」私たちの姿に私たちを戻すために十字架にかかられたのです。それなのに、私たちが、士師記の時代のイスラエル人のように敵に支配されたまま生きて良いのでしょうか？昔のペテロのようにずっと漁師のままで良いのでしょうか？そんな生き方をイエス様は望んで十字架にかかったのではありません。私たちが遣わされた場所でイエス様の光を放ち、神さまの証人として栄えることを望んで十字架で犠牲になったのです。私たちがこのまま腐って十字架の犠牲を無駄にしてはいけません。私たちの人生を無駄にするのは他人でも環境でもなく悪魔でもなく自分自身の劣等感から出る決断です。パンチネロのように神さまの言葉を信じて自分でだめ印を飛ばさなければいけません。神さまの言葉を信じることから始まりますよ。